

第106回  日本繁殖生物学会

市民公開講座

座長：小倉淳郎（理研BRC）、加茂前秀夫（東京農工大学）

テーマ

体外受精等の生殖細胞操作技術のヒト不妊症への応用と
それらの技術の過去・現在・未来

動物繁殖学の研究において発展してきた生殖細胞操作技術が、ヒト不妊症の最新治療法として活用されています。一方で、動物の繁殖においては性判別精子や胚の性判別の他、特別な遺伝子を受精卵に注入したトランスジェニック（遺伝子注入）動物などが家畜生産や研究に応用されています。このような生殖細胞操作法に関する現状を紹介し、生殖技術研究の果たして来た役割や将来に向かっての研究推進の重要性を市民の皆さんと共に考えたいと思います。

開催日時：2013年9月14日（土）15:30～18:00

- 講演1 15:30-16:15 ヒト不妊治療における体外受精の現状
雀部 豊 先生（幸町IVFクリニック）
- 講演2 16:15-17:00 動物における繁殖技術の開発と発展
高橋 芳幸 先生（ジェネティクス北海道）
- 講演3 17:10-17:40 生殖工学技術が拓く未来の動物生産
長嶋 比呂志 先生（明治大学）
- 総合討論 17:40-18:00

開催場所：ルミエール府中
コンベンションホール
飛鳥



参加費：無料

お問合せ：第106回日本繁殖生物学会大会事務局
東京農工大学農学部獣医臨床繁殖学研究室
電話：042-366-4062
e-mail：srd106@cc.tuat.ac.jp